

※令和4年度以降入学生用

学校番号	2004
------	------

令和4年度 芸術科

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	2 単位	年次	1 年次
使用教科書	書 I (教育図書 出版)						
副教材等	自主教材プリント						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

表現及び鑑賞の活動において、単に文字を美しく書くだけでなく、感受性を持って書表現を鑑賞することにより、表現の意図を理解し書写技術の向上を目指す。

書表現が身近な存在であることを理解し、文字文化の成り立ちや歴史的背景とともに、書表現の理解を深める観点から、文字の変遷、伝統・文化に関する学習活動を実践する。

授業の進め方については、授業毎の目標を明確化し、表現(書作の意図・書写技能)と鑑賞を並行して扱い評価については、各単元・授業毎の作品・ワークシート提出等でおこなう。

2 学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、書の関する見方・考え方を働きさせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	書の表現や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けようとする。	書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美の味わい捉えたりすることができるようになる。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通じて心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学 期	单 元 (学習項目)	学習内容	単元の評価規準 (生徒の到達目標)	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	「漢字仮名 交じり」の書	ガイダンス	a: さまざまな書体の成り立ちや変遷を知り、また、それぞれの趣の違いを感じ取る。 c: 国語科書写と芸術科書道について理解し、今後の授業に向け期待感を持って意欲的な姿勢を持っている。	ワーク シート		観察
		「線の表現」 用具・用材などの特徴を理解し、筆の機能を体験的に学習する。	a: 筆の特徴を理解し、制作時の表現意図を作品に反映させ表現している。 b: 題材のイメージに相応しい表現方法を工夫している。	作品	作品	相互批 評 ワーク シート 観察
		「文字で表現しよう」 題材のイメージや意味を考え、それに相応しい表現を創意工夫して書作し、その難しさや面白さを体感する。	c: 作品の相互批評を行い、自他の作品の意図を考え、個々にしか書けない文字の尊さを感じ味わっている。			
	篆刻	「言葉・詩句を書こう」 単元での学習経験を踏まえ、表現を工夫することで、他作品の制作意図を考え鑑賞する能力を身につける。	c: 押印し作品として完成させ、そのよさを味わっている。	作品 ワーク シート		作品 ワーク シート
		「篆刻」 落款印を制作し、作品に押印できるようにする。	c: 押印し作品として完成させ、そのよさを味わっている。			
2 学 期	硬筆での楷書	自分の氏名を楷書で書く 「楷書の学習」での文字構築の原理を自分の氏名に当てはめ、丁寧に美しく書くことと、普段から丁寧に書く習慣を身につける。	a: 文字構築の原理を自分の氏名に当てはめ、丁寧に美しく書く技能を身に付け表している。 c: 日常もっとも書く機会が多い自分の氏名を美しく書くために積極的に取り組んでいる。	作品 ワーク シート		観察
	楷書の学習①	「書写からの展開」 書写からの展開を考え、楷書の基本点画の技能面での習得について確認する。また、楷書の文字の構築性などを考えながら書く習慣を身につける。	a: 筆の特徴を理解し、基本点画の習得に努め、構築性を身に付け書作している。 c: 積極的に取り組み、技術の習得に努めている。	作品 ワーク シート		観察

※令和4年度以降入学生用

2 学 期	楷書の学習②	<p>「古典臨書」 唐の四大家の作品について、形臨中心に行い、書風の違いによる表現技術の習得と鑑賞する習慣を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九成宮醴泉銘 ・孔子廟堂碑 ・雁塔聖教序 ・建中告身帖など 	<p>a:古典の違いを技術的に書き分ける技能を習得している。 d:各古典の表現を工夫している。 c:楷書の成り立ちや各古典の歴史的背景と各古典の特徴を理解し、感性を持って創造的に味わっている。</p>	作品	作品	ワークシート
	行書の学習	古典臨書を中心に楷書と行書の違いを理解し、その技法を学習する	<p>a:行書の特徴を理解し、基本点画の習得に努め、古典の技法を身に付けている。 b:各古典の特徴を理解し、感性を持って創造的に味わっている。</p>	作品	作品	観察
2 学 期	仮名の学習	「いろは歌」から古典の連綿まで展開して行くことで、仮名の用筆法を習得する。平仮名・片仮名の成立ちを学習する。	<p>a:仮名の用筆法を理解し、基本点画の習得に努め、古典の技法を身に付け表している。 b:日本古来の仮名の古典の特徴・美しさを理解し、意図を持つて創造的に表現している。 c:日本語表記も含めた、平仮名の成立ちについて関心を持ち、積極的に取り組もうとしている。</p>	作品	作品	観察ワークシート
3 学 期	文字の成り立ち ・篆書、隸書の学習	<p>書体の変遷を学習し、甲骨文字から、現在使用している「ひらがな・カタカナ」が、どのような変遷を経て成立したものかを確認する。</p> <p>篆書・隸書の筆使いを学習する。</p> <p>古人の古典臨書作品を鑑賞し、臨書時の表現の意図を考察し鑑賞能力を高める。</p>	<p>a:文字の変遷について関心を持ち、積極的に取り組み、技術の習得に努めている。 d:各古典の特徴を理解し、感性を持って創造的に表現できている。</p>	作品	作品	観察ワークシート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度